

— 目 次 —

はじめに

	三年間の全国学力・学習状況調査から見た課題	1
I	調査の概要	2
II	学力の状況	3
	1 概要	4
	2 学力についての全国比較	6
	3 教科に関する調査結果の平成19・20年度との比較	8
	4 市町村・学校別の状況	10
III	教科ごとの学力の状況等	14
	1 小学校国語	15
	指導改善例	20
	2 中学校国語	24
	指導改善例	29
	3 質問紙調査より（小学校・中学校国語）	33
	4 小学校算数	36
	指導改善例	41
	5 中学校数学	45
	指導改善例	50
	6 質問紙調査より（小学校算数・中学校数学）	54
IV	質問紙調査の状況	57
	1 基本的な生活習慣に関する内容	58
	2 自尊感情に関する内容	69
	3 人や社会とのかかわりに関する内容	75
	4 家庭学習に関する内容	85
	5 読書、学校図書館、ICTに関する内容	97
	6 授業・学習サポート等に関する内容	104
	7 校内研修や組織的な取組に関する内容	118
	8 全国学力・学習状況調査の結果の活用	124
	9 地域との連携に関する内容	128
	10 特別支援教育に関する内容	133
	11 質問紙調査結果一覧	136
	作成委員名簿	144

はじめに

平成21年4月に実施された全国学力・学習状況調査の結果が平成21年8月に公表されました。

その中では、本県の小・中学生の学力は国語、算数・数学ともに依然として厳しい状況にあります。小学生の平均正答率は、全国の平均正答率より1.0～2.7ポイント低く、中学生の平均正答率も2.8～7.2ポイント低い状況です。

しかしながら、中学校は国語、数学ともに全国の平均正答率との差が徐々に縮まっており、昨年度から実施している中学校の学力対策の成果の現れと評価することができます。

一方、小学校では、国語は全国とほぼ同程度の平均正答率であったものの、算数では全国の平均正答率との差がひらいており、その原因を詳細に分析したうえで、「単元テスト」の活用をはじめとした、学習内容をより確実に定着させるための具体的な手立てを講じなければなりません。中学校においては、これまでの手立てを確実に実行するとともに、小学校においては、一層の課題意識を持って学校をあげて取組を強化することが求められています。

次に質問紙調査では、これまで大きな課題があった中学校において、家庭学習については勉強時間が30分未満の割合が減少しており、改善傾向が見られます。また、学校の取組についても「実践的な校内研修」や「調査結果の活用による指導改善」などが積極的に行われていることがうかがわれます。このように、平成20年7月にまとめた「学力向上・いじめ問題等対策計画」（平成21年5月改訂）の中で取り組むべき指針を示し、各学校も自校が作成した「学力向上のための学校改善プラン」に基づく改善方策を実行し、県をあげて学力向上に取り組み始めた成果は、着実に子どもたちや学校の変化として現れています。

県教育委員会としましては、各学校の学力向上のための学校改善プランが確実に実行され成果をあげるために、学校訪問指導の支援をさらに充実させたいと考えています。今回の結果を踏まえ、個々の方策について、その有効性を精査し、学力向上のための取組の徹底と質的な向上を図りながら、それをさらに継続し、徹底してまいります。

本冊子では、これまでに明らかになった本県の子どもたちの学力・学習状況の課題を分析すると同時に、「指導改善の方向性」や「今後の手立て」を示しております。

それぞれの学校や教育委員会におかれましては、調査結果に基づく分析や検証が進められていると思いますが、本冊子に示す高知県の状況も踏まえた視点からも検討を加えられ、改善のための手立てを一層確固たるものとして進められることを願ってやみません。

この全国学力・学習状況調査で測ることのできるものは、たしかに学力の一つの側面ではありますが、子どもたちが未来を切り拓き、たくましく生きていくために必要とされる基礎・基盤となる学力でもあります。子どもをはじめ本県の教育に携わる者には、教育の機会均等の観点からも、本県の子どもたちに全国レベルの基礎学力と学ぶ力を育む義務があり、誰もが子どもたちの幸せを願い、心に寄りそう思いを持って学力保障に取り組んでいかなければなりません。

これからは、学力向上に向けてのベクトルをしっかりと合わせて全員が取り組むことが重要です。本冊子の趣旨をご理解いただき、子どもたちの未来と本県教育の向上のために、すべての方々が知恵と力を結集して、学力の向上という成果に結びつくことを心から願っています。

平成22年3月

高知県教育長 中澤 卓史

三年間の全国学力・学習状況調査から見た課題

国語の調査結果から

高知県教育委員会事務局小中学校課

- ★目的や意図に応じて、話したり、聞いたり、書いたり、読んだりすることに課題
- ★漢字や語句を文脈に即して使うことに課題
特に中学校において、小学校で学習した漢字が未定着
- ◆目的や相手に応じて話したり聞いたりする授業や様々な文章を読む習慣を付ける授業の実施率が少ない。

算数・数学の調査結果から

- ★四則計算はできるが、それを問題解決のために活用したり、表やグラフから必要な情報を読み取ったりすることに課題(算数)
- ★学習の基礎となる文字式や方程式の活用に課題。(数学)
- ★解決方法の手順のみを理解し、既習事項と関連づけたり、根拠を説明したりすることに課題(数学)
- ◆算数・数学がよくわかると回答した小中学生の割合は全国とほぼ同じであるが、正答率に反映されていない。
- ◆算数・数学の指導で発展的な指導を行った中学校の割合は全国を下回っている。

学習の質の向上と学習量の確保

・価値ある学習課題

・定着を図る繰り返し学習

既習事項の活用と学習内容の定着

【小学校において】

- ・日常生活を踏まえた多様な言語活動の体験ができるよう授業を工夫する。(国語)
- ・「なぜ」「どうして」という疑問をもてるような授業を工夫する。(算数)

【中学校において】

- ・社会生活を踏まえた多様な言語活動の体験ができるような授業を工夫する
(国語)
- ・解決方法の習熟を図るだけでなく、学習を発展的に展開する(数学)

学習内容の確かな定着 学習シートの作成と配布

- ・価値ある学習課題
- ・単元ごとの習熟度把握
- ・年度末の確認
- ・活用力の伸張



I 調査の概要

1 調査の目的

- ◇ 国が、全国的な義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、各地域における児童生徒の学力・学習状況をきめ細かく把握・分析することにより、教育及び教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ◇ 各教育委員会、学校等が、全国的な状況との関係において自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- ◇ 各学校が、各児童生徒の学力や学習状況を把握し、児童生徒への教育指導や学習状況の改善等に役立てる。

2 実施日 平成21年4月21日（火）

3 公表日 平成21年8月27日（木）

4 調査内容

- (1) 小学校第6学年、中学校第3学年の全児童生徒を対象
- (2) 教科に関する調査は、国語、算数・数学を出題
「知識」に関する問題と、「活用」（知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力等）に関する問題を出題
- (3) 生活習慣・学習環境等に関する質問紙調査を実施

5 県内（公立学校）の参加状況

- (1) 参加学校数

公立小学校229校

※特別支援学校（小学部）2校を含む

※小学校6年生が在籍していない小学校4校を除く

公立中学校117校

※特別支援学校（中学部）3校を含む

※中学校3年生が在籍していない中学校1校を除く

※修学旅行のため後日実施した中学校2校を除く

公立小・中学校合計学校数345校

- (2) ① 小学校解答（回答）児童数

国語A	6,464名	国語B	6,462名
算数A	6,462名	算数B	6,459名
児童質問紙	6,463名		

- ② 中学校解答（回答）生徒数

国語A	5,478名	国語B	5,476名
数学A	5,479名	数学B	5,469名
生徒質問紙	5,472名		

※ 国・私立学校の参加状況

平成21年度 4校（平成20年度 5校）

Ⅱ 学力の状況

1 概要

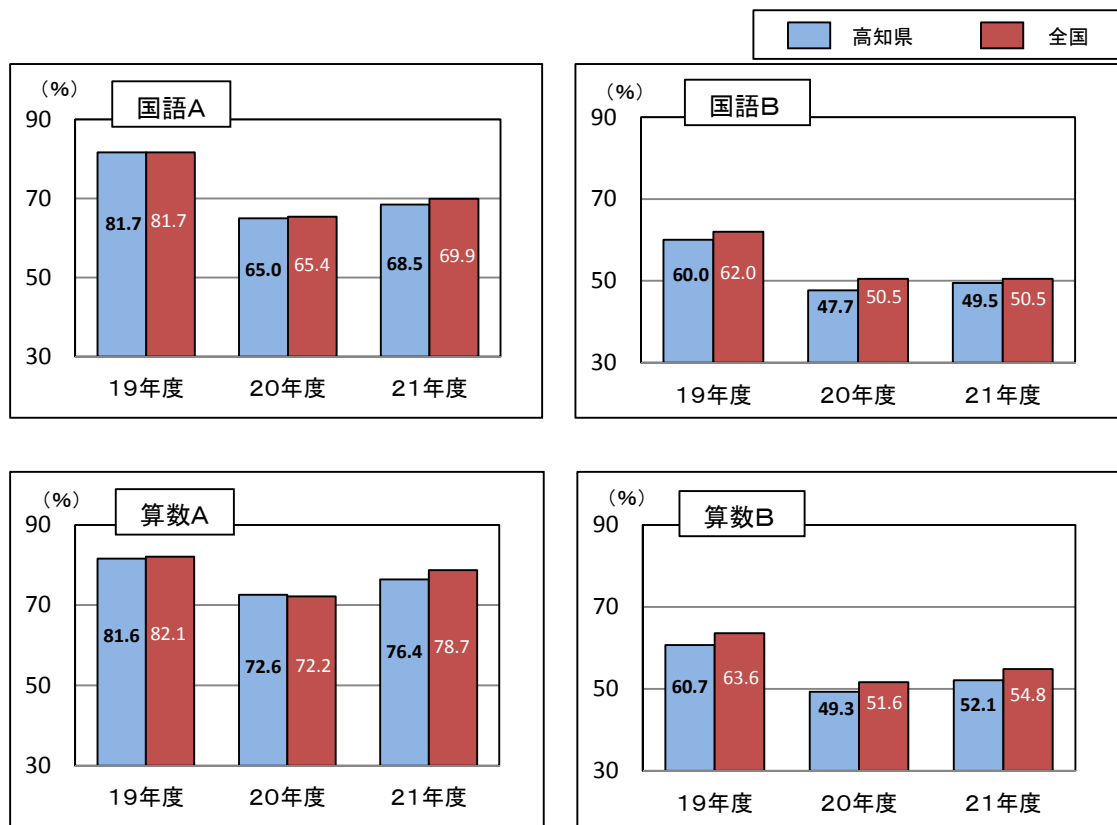
(1) 小学校

〔教科に関する調査結果〕

○ 国語と算数の平均正答率は、全国とほぼ同じである。

【教科ごとの平均正答率】

		国語 A	国語 B	算数 A	算数 B
平成 21 年度	高知（公立）（％）	68.5	49.5	76.4	52.1
	全国（公立）（％）	69.9	50.5	78.7	54.8



○ 19・20年度と同様に基礎的な知識や技能を活用する力が弱い。

〔課題〕

全国との差	国語 A : 1.4ポイント低い	国語 B : 1.0ポイント低い
	算数 A : 2.3ポイント低い	算数 B : 2.7ポイント低い

・算数 A は全国の平均正答率より、20年度は0.4ポイント上回っていたが、21年度は2.3ポイント下回っている。

(2) 中学校

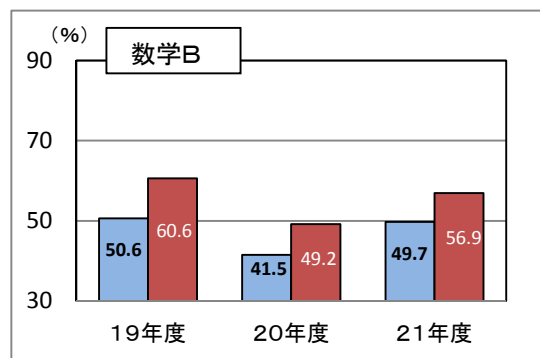
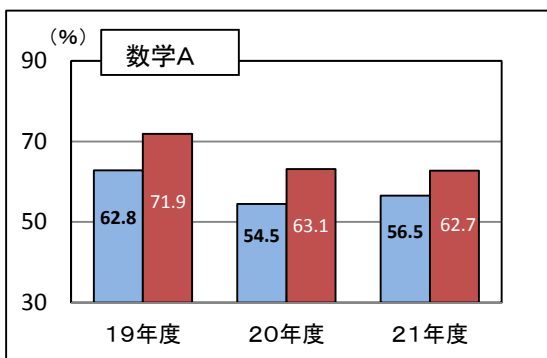
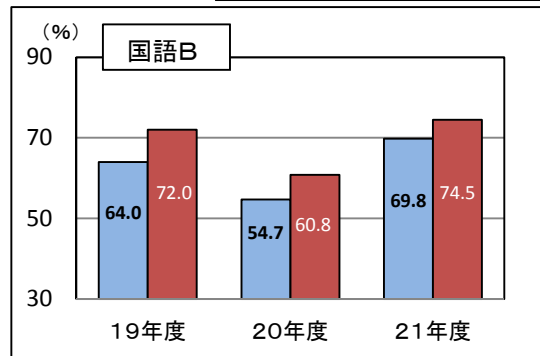
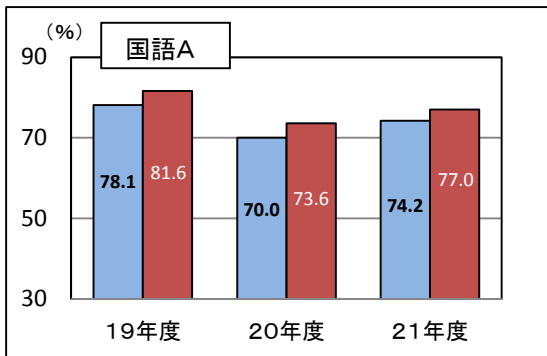
〔教科に関する調査結果〕

- 国語A（知識）・国語B（活用）の平均正答率は全国よりやや低く、数学A（知識）・数学B（活用）の平均正答率は19・20年度と同様に全国平均より5ポイント以上低い。

【教科ごとの平均正答率】

		国語A	国語B	数学A	数学B
平成21年度	高知（公立）（%）	74.2	69.8	56.5	49.7
	全国（公立）（%）	77.0	74.5	62.7	56.9

■ 高知県 ■ 全国



- B（活用）問題の記述形式の問題における無解答率は改善傾向が見られる。

【中学校国語B・数学Bの記述形式の問題の無解答率の平均】

		高知県(公立) (%)	全国(公立) (%)	全国との差
平成21年度	国語B	9.4	6.4	3.0
	数学B	27.6	22.8	4.8
平成20年度	国語B	29.3	20.2	9.1
	数学B	34.1	27.0	7.1
平成19年度	国語B	18.3	10.7	7.6
	数学B	33.4	23.0	10.4

※20・21年度、中学校の記述形式の問題は、A問題には出題されていない。

〔課題〕

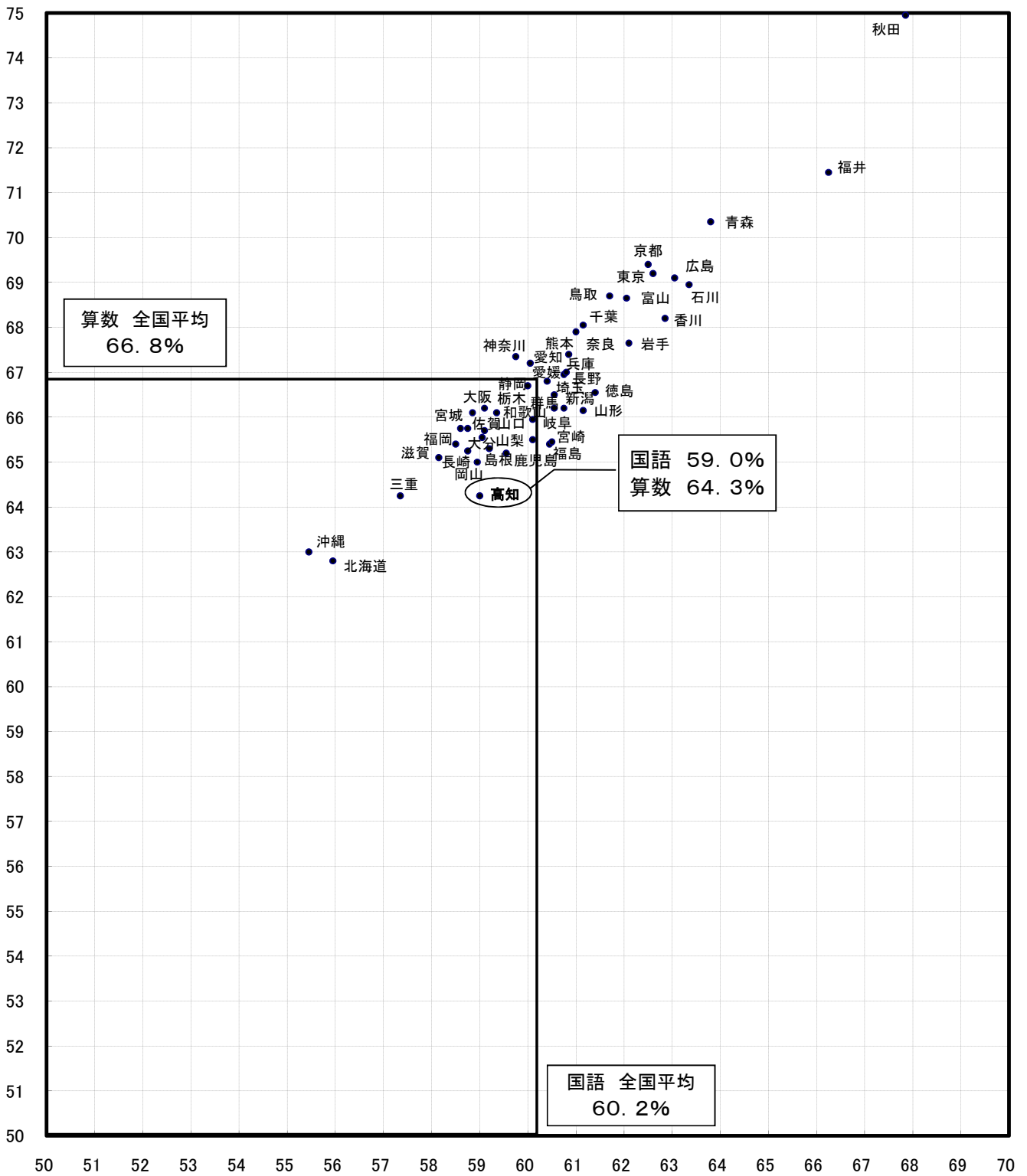
全国との差 国語A：2.8ポイント低い 国語B：4.7ポイント低い
 数学A：6.2ポイント低い 数学B：7.2ポイント低い

- ・国語A・B、数学A・Bとも全国の平均正答率との差は縮まっているものの、依然として全国との差が大きい。

2 学力についての全国比較

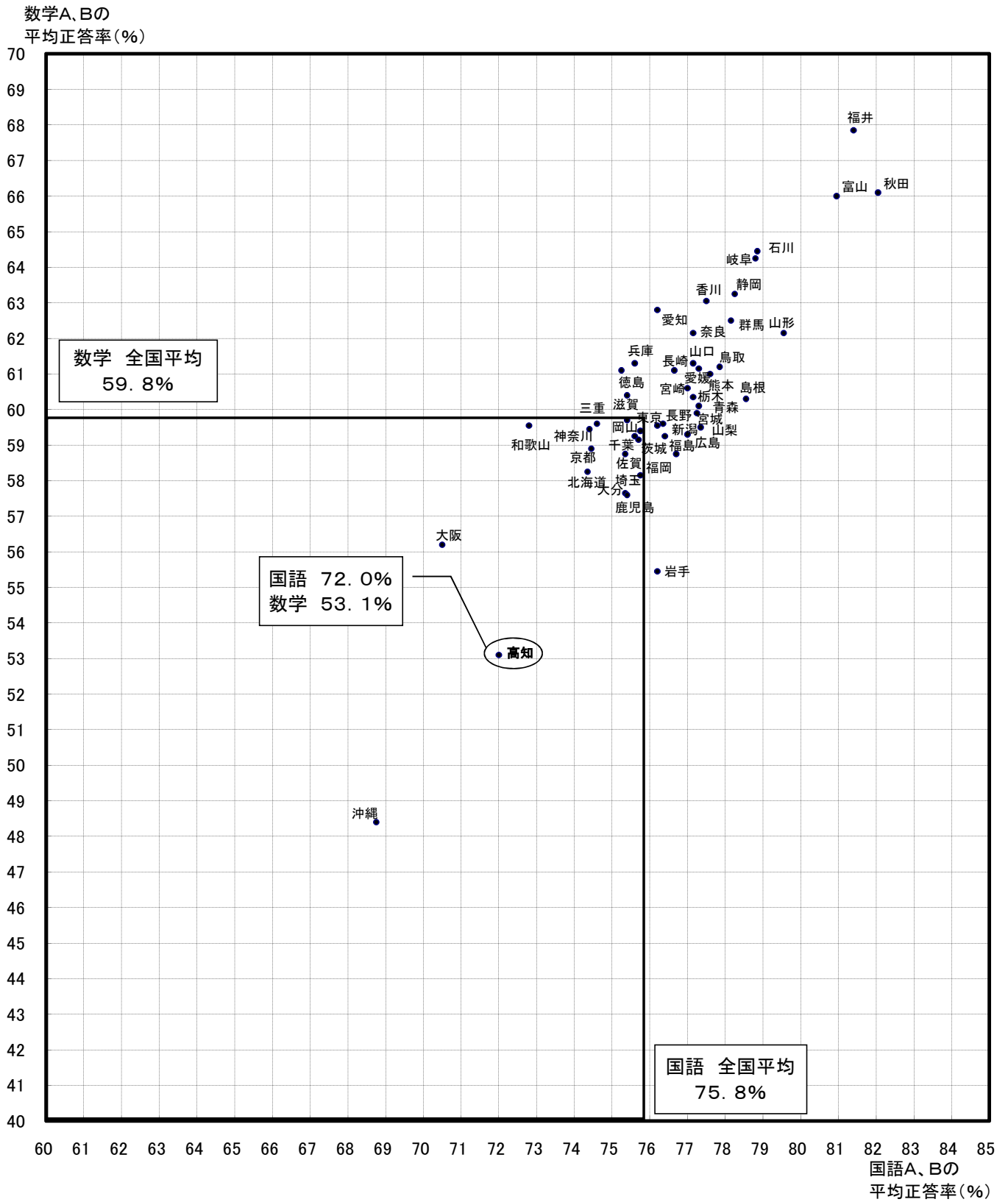
小学校 国語と算数の相関図

算数A、Bの
平均正答率(%)



国語A、Bの
平均正答率(%)

中学校 国語と数学の相関図



3 教科に関する調査結果の平成19・20年度との比較

【国語】

[平成20年度との比較]

- 小学校国語A（知識）は、全国の平均正答率との差が、昨年度と比べ1.0ポイントひらいた。
- 小学校国語B（活用）は、全国の平均正答率との差が、昨年度と比べ1.8ポイント縮まった。
- 中学校国語A（知識）は、全国の平均正答率との差が、昨年度と比べ0.8ポイント縮まった。
- 中学校国語B（活用）は、全国の平均正答率との差が、昨年度と比べ1.4ポイント縮まった。

[平成19年度からの経年変化]

- 中学校国語B（活用）は、全国の平均正答率との差が、徐々に縮まっている。

小学校国語

		高知県(公立) 平均正答率(%)	全国(公立) 平均正答率(%)	全国と高知県の差
国語A	平成21年度	68.5	69.9	-1.4
	平成20年度	65.0	65.4	-0.4
	平成19年度	81.7	81.7	0.0
国語B	平成21年度	49.5	50.5	-1.0
	平成20年度	47.7	50.5	-2.8
	平成19年度	60.0	62.0	-2.0

中学校国語

		高知県(公立) 平均正答率(%)	全国(公立) 平均正答率(%)	全国と高知県の差
国語A	平成21年度	74.2	77.0	-2.8
	平成20年度	70.0	73.6	-3.6
	平成19年度	78.1	81.6	-3.5
国語B	平成21年度	69.8	74.5	-4.7
	平成20年度	54.7	60.8	-6.1
	平成19年度	64.0	72.0	-8.0

【算数・数学】

[平成20年度との比較]

- 小学校算数A（知識）は、昨年度は全国の平均正答率より0.4ポイント上回っていたが、本年度は2.3ポイント下回った。（昨年度比2.7ポイント下降）
- 小学校算数B（活用）は、全国の平均正答率との差が、昨年度と比べ0.4ポイントひらいた。
- 中学校数学A（知識）は、全国の平均正答率との差が、昨年度と比べ2.4ポイント縮まった。
- 中学校数学B（活用）は、全国の平均正答率との差が、昨年度と比べ0.5ポイント縮まった。

[平成19年度からの経年変化]

- 中学校数学A（知識）及び中学校数学B（活用）は、全国の平均正答率との差が徐々に縮まっている。

小学校算数

		高知県(公立) 平均正答率(%)	全国(公立) 平均正答率(%)	全国と高知県の差
算数A	平成21年度	76.4	78.7	-2.3
	平成20年度	72.6	72.2	0.4
	平成19年度	81.6	82.1	-0.5
算数B	平成21年度	52.1	54.8	-2.7
	平成20年度	49.3	51.6	-2.3
	平成19年度	60.7	63.6	-2.9

中学校数学

		高知県(公立) 平均正答率(%)	全国(公立) 平均正答率(%)	全国と高知県の差
数学A	平成21年度	56.5	62.7	-6.2
	平成20年度	54.5	63.1	-8.6
	平成19年度	62.8	71.9	-9.1
数学B	平成21年度	49.7	56.9	-7.2
	平成20年度	41.5	49.2	-7.7
	平成19年度	50.6	60.6	-10.0

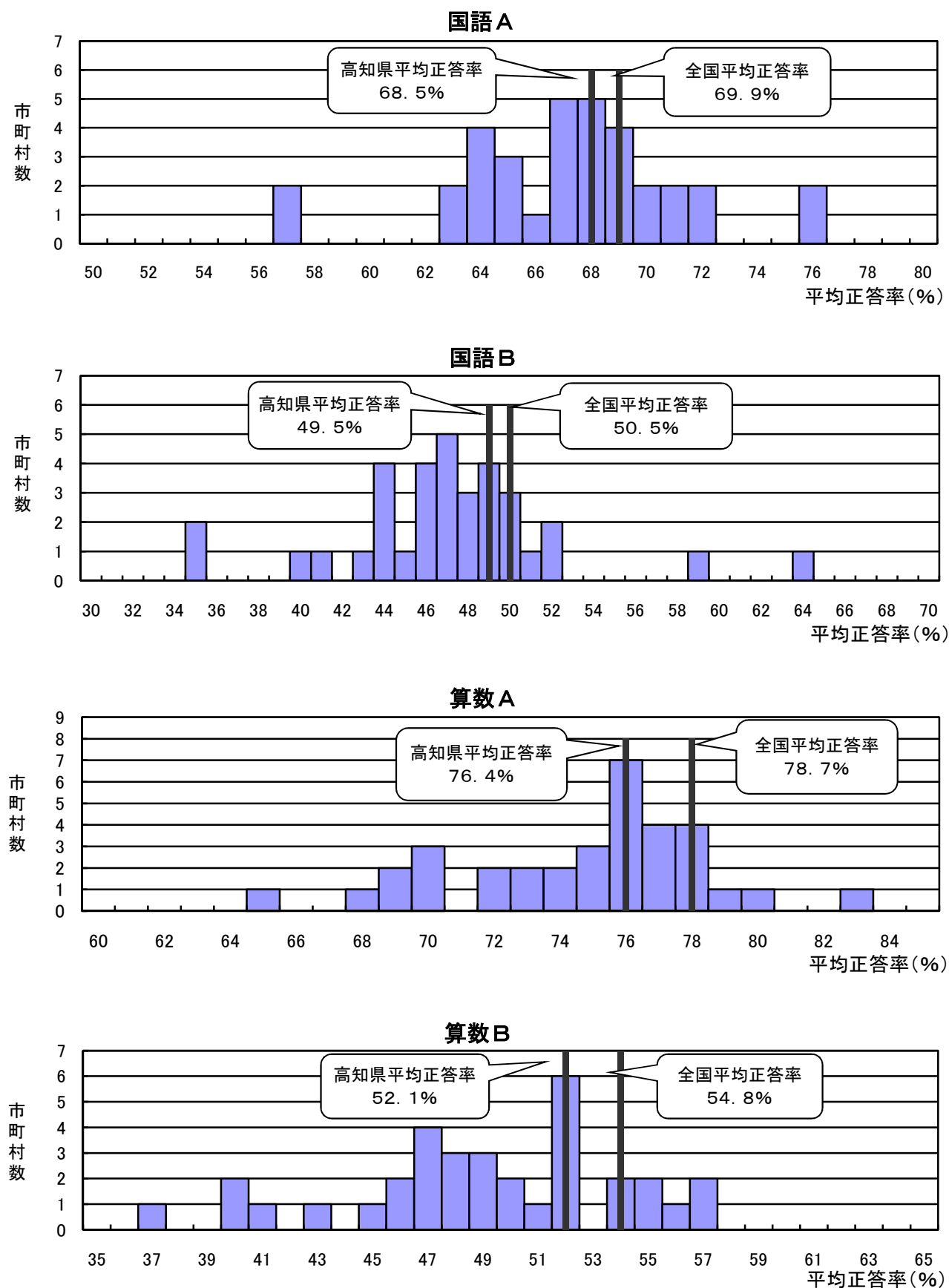
4 市町村・学校別の状況

(1) 市町村別平均正答率の分布状況

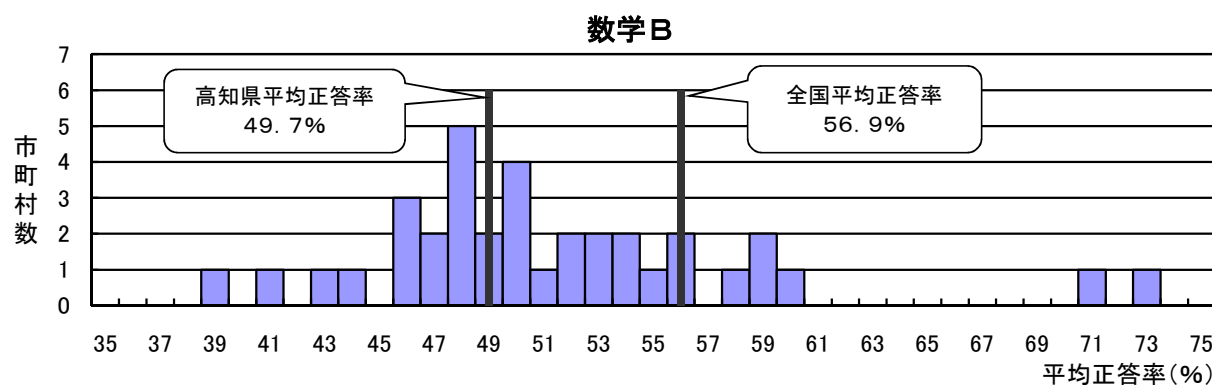
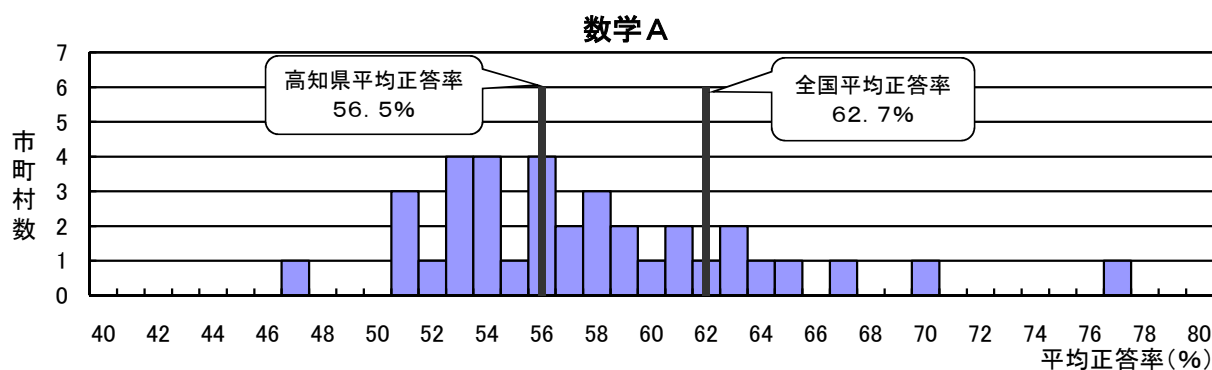
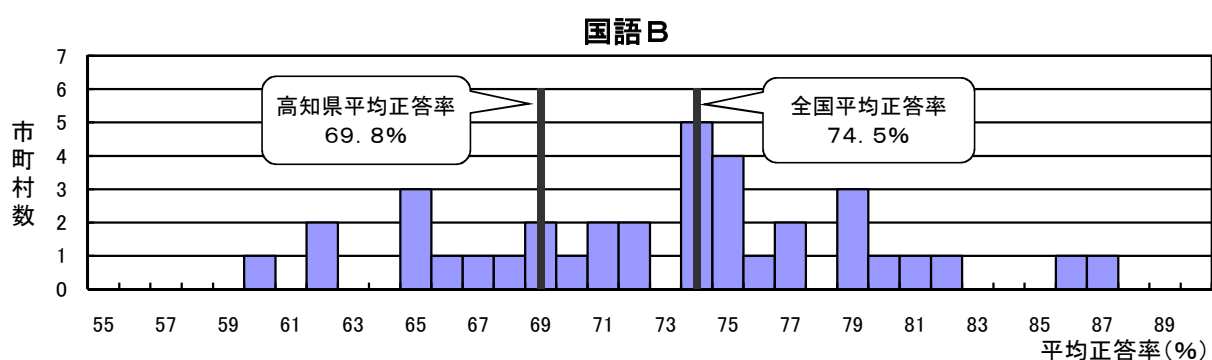
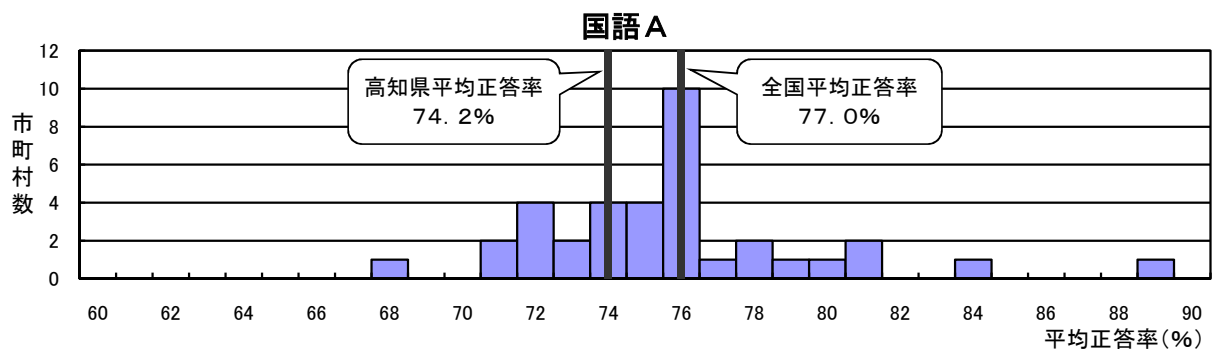
○ 19・20年度と同様に、市町村によって学力の定着状況に格差が見られる。

[小学校]

[縦軸は市町村数、横軸は平均正答率]



[中学校]



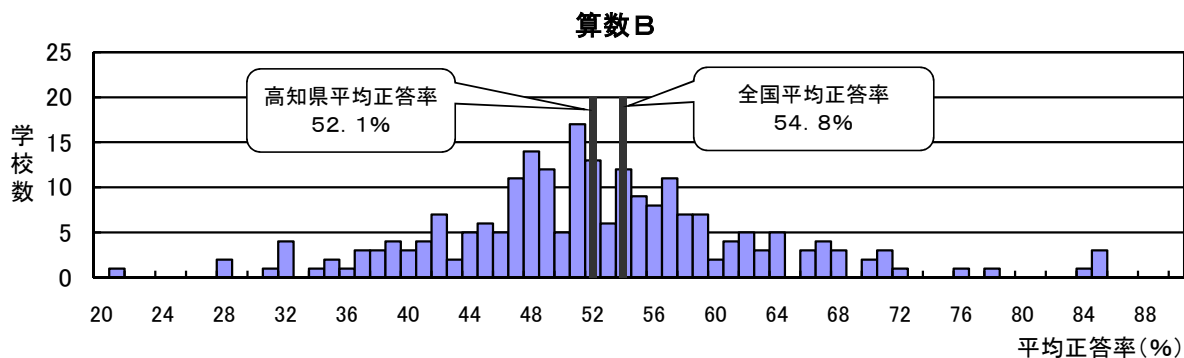
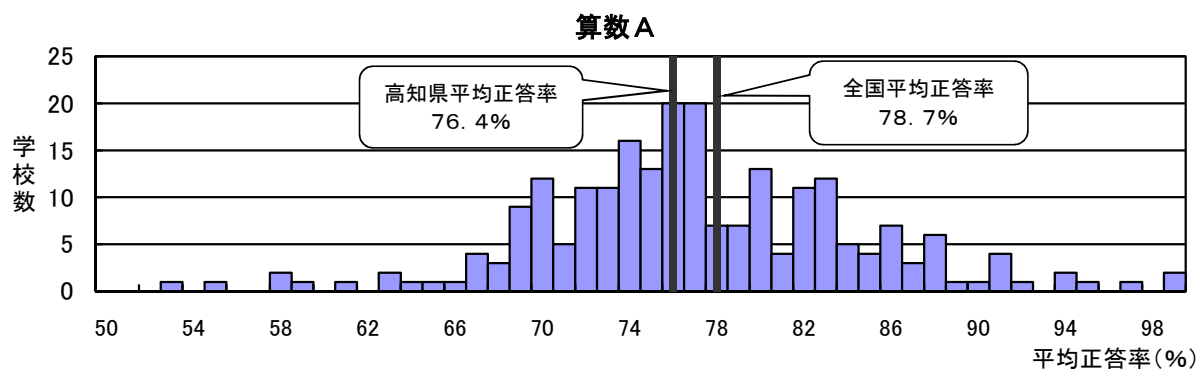
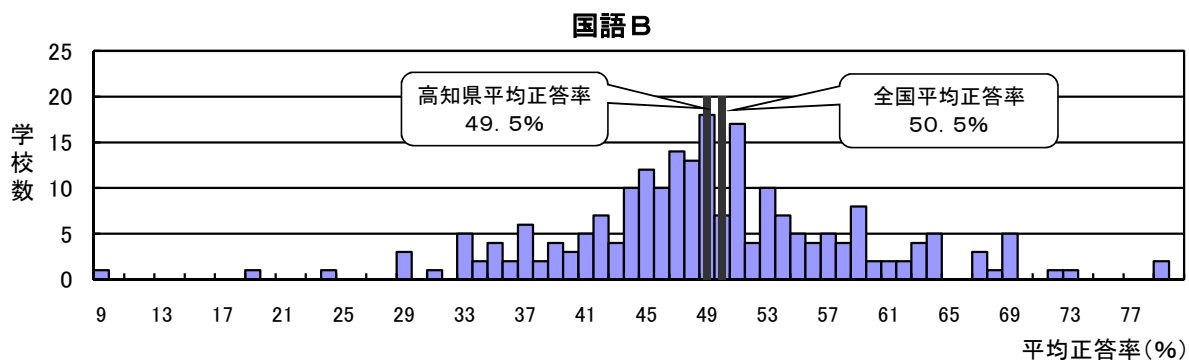
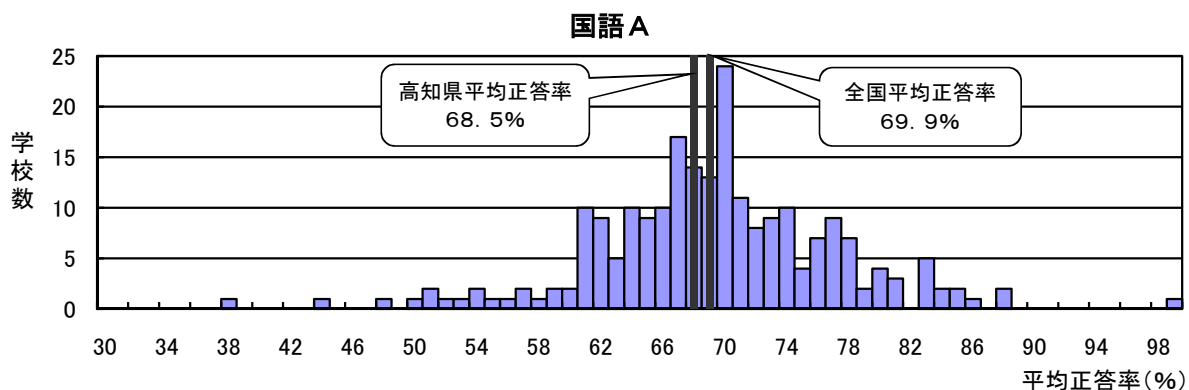
※縦軸の市町村数について・・・学校が1校であっても1市町村として表している。
 ※横軸の目盛りについて・・・例えば60から上に伸びたグラフの目盛りは60より大きく61以下を表している。

(2) 学校別平均正答率の分布状況

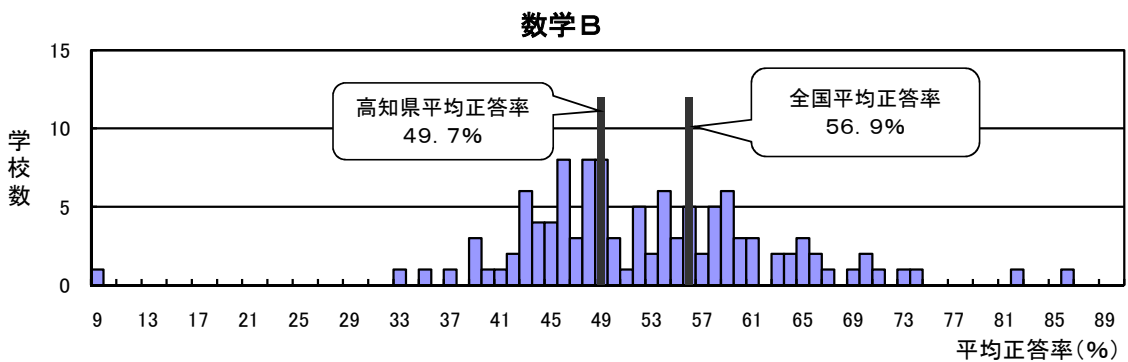
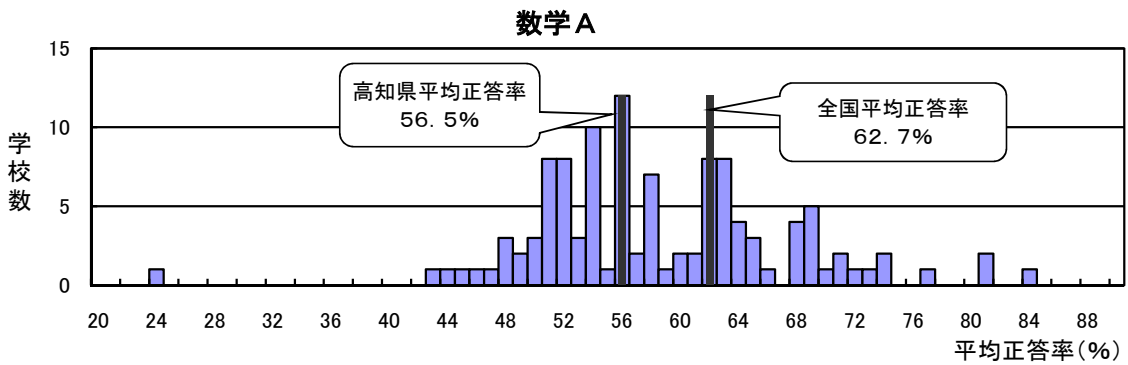
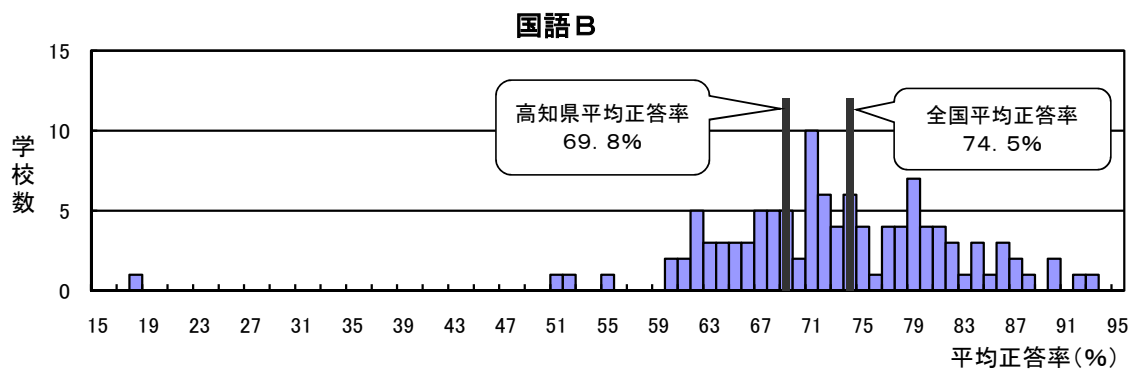
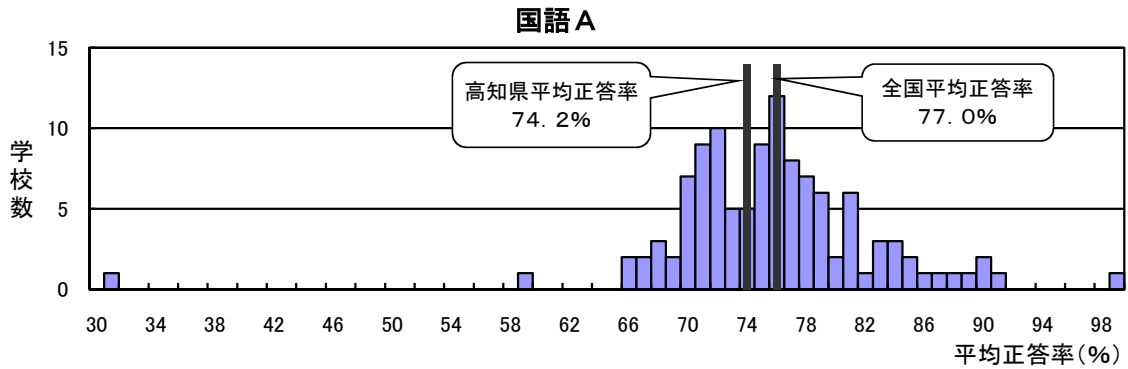
○ 19・20年度と同様に、学校によって学力の定着状況に格差が見られる。

[小学校]

[縦軸は学校数、横軸は平均正答率]



[中学校]



※縦軸の学校数について…児童生徒の在籍数が1名であっても1校として表している。

※横軸の目盛りについて…例えば60から上に伸びたグラフの目盛りは60より大きく61以下を表している。